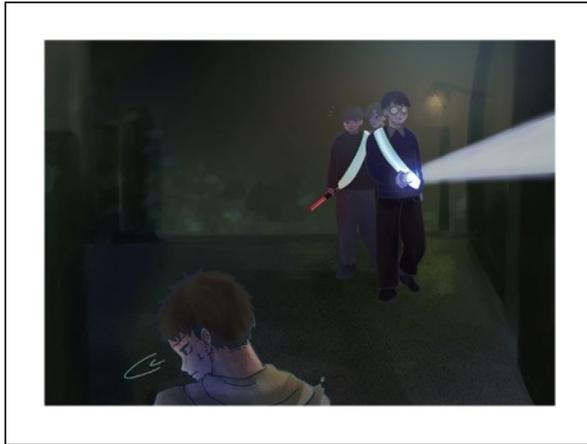




～非行少年の目線～



「うわっ、最悪！」

向こうからパトロール隊の人たちが近づいてきます。

「うわ～、めんどくせえ、

注意とかされらウザイし、無視しよう……」

顔をそむけた少年。

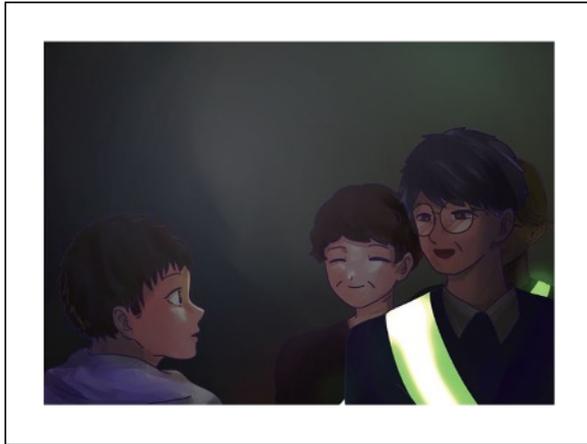
関わらないようにしようとしています。

ライトを握ったパトロール隊が、徐々に近づいてきます。





～非行少年の目線～



「こんばんは～。」

「寒いね～、気をつけてね～。」

「暗いから気をつけてね～!」

パトロール隊の方々から声をかけられました。
非行少年は、とても驚きました。

思いがけない挨拶をしてもらって
返答にも戸惑いました。

「ど、どうも・・・」





～非行少年の目線～



「全然知らない人たちだったけど、こんなオレに声をかけてくれた……。」

何という会話でもなく、さりげない挨拶程度だったのですが、
何だかそんな、人の繋がりのようなものを少年は感じた気がしました。

「そうか。自分はひとりじゃないんだ。
このまちのなかで、いろんな人と繋がってる。
このまち自体が、自分の居場所なんだ……。」

とても漠然としているんだけど、何だか温かい。そんな感覚を持ちました。

孤独や寂しさを抱えた非行少年。
パトロール隊のちょっとした声掛け、あいさつで、
少し心が救われたような気がしました。

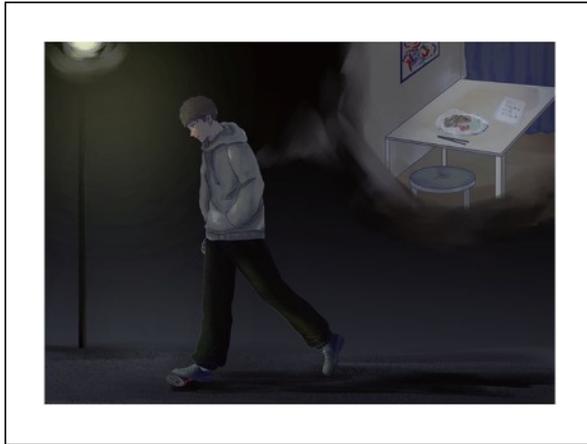
パトロール活動は必ず複数人で行いましょう。
『補導指導』までしなくとも、あいさつ程度でも声をかけてみましょう。
もしかしたら、その後の犯罪抑止になっているのかもしれないね。

おしまい、おしまい。





～非行少年の目線～



「ちっ、家には誰もいないし、誰も相手してくれない。
あ～あ、退屈だなあ……。」

少年が夜の街を歩いています。

寂しさか、
どこにも居場所が無いのか、
あてもなく、夜道をさまよっています。

いわゆる非行少年。
「不良少年」とも言われるのかもしれませんが。

